様式 C-7-2

自己評価報告書

平成　22 年　5 月　1 日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2007～2010
課題番号：19520270
研究課題名（和文）　新約聖書におけるヘレニズム・ユダヤ人キリスト教書簡文学の修辞学的研究
研究課題名（英文）　Rhetorical Studies on the Hellenistic Jewish Christian Epistolary Literature in the New Testament

研究代表者
山田　耕太　（Yamada Kota）
敬和学園大学・人文学部・教授
研究者番号：50240015

研究代表者の専門分野：新約聖書学
科研費の分科・細目：人文学・文学・ヨーロッパ語系文学
キーワード：西洋古典、新約聖書、修辞学的批評、書簡文学

１．研究計画の概要

本研究の目的は、ユダヤ教的色彩が強いヘレニズム・ユダヤ人キリスト教の書簡文学であるヘブライ書、ヤコブ書、さらに書簡形式で書かれたヨハネ黙示録などの文学的構造と神学議論を修辞学的批評で明らかにすることにある。ここには一見すると、ギリシア・ローマの修辞学的分析では解明できないようなユダヤ教的な思考が展開されているようだが、ヘブライ的思考とギリシア・ローマの修辞的思考を併せ持ったフィロンなどの修辞法に習熟することによって、このような書簡の修辞学的分析を先に進めることができるであろう。

２．研究の進捗状況

（１）背景研究としてギリシア・ローマ社会のパイデイアにおける修辞学を位置づけ、とりわけヘレニズム・ユダヤ教のフィロンのパイデイアと修辞学ならびに哲学の関係を位置づけて、フィロンの聖書解釈における修辞学の用い方を分析した（論文①、④、⑤、⑦）。

（２）19 世紀末から 21 世紀初頭までの福音書研究史ならびに書簡研究史を修辞学的批評という新たな視点から概観し、再評価した。すなわち従来の様式史・編集史による聖書解釈が 20 世紀に典型的な聖書解釈方法であるが、それはケリュグマ神学の影響下の一時期に風靡した研究方法に過ぎず、社会学や修辞学を用いた研究方法が広まった時代には過ぎ去ったものである（論文③、図書①）。

（３）新約聖書のヘレニズム・ユダヤ人キリスト教書簡文学の代表として、ヘブライ書・ヤコブ書（2010 年度発表予定）を修辞学的批評の視点から再評価して分析した（論文②）。

３．現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

（理由）

背景研究としてフィロンを理解するために、パイデイア・修辞学・哲学と掘り下げてきた。さらにフィロンの聖書釈義そのものを取り上げて、その全体像を熟知する必要がある（2010 年度研究予定）。

また、新約聖書の修辞学的分析はローマ書を含めて真筆のパウロ書簡はほぼ終えているが、それ以外のヘレニズム・ユダヤ人キリスト教書簡文学としてヘブライ書・ヤコブ書以外にも第一ヨハネ書やヨハネ黙示録などの分析が残っている。今後の課題としてヨハネ黙示録に関しては黙示文学の修辞学的分析というもう一つの大きな領域が残されている。

４．今後の研究の推進方策

1999-2001 年度の科学研究費萌芽的研究『パウロ書簡の書簡理論的・修辞学的研究』（図書②の第二部に所収）で取り上げた第二コリント書の書簡理論的・修辞学的研究以後に取り扱った第一コリント書 1-4 章、フィリピ書、ガラテヤ書、ローマ書の修辞学的研究と本研究で分析した研究の諸論文を合わせて、研究論文集として出版したいと考えている。

これらの成果を踏まえて、一方ではQ文書を始めとする福音書の修辞学的研究を進め、他方ではヨハネ黙示録などの黙示文学の修辞学的研究を進め、こうして修辞学の視点で新約聖書緒論と新約聖書神学を書き上げることがこれらの一連の研究の目標である。

５．　代表的な研究成果
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計７件）
①山田耕太「フィロンにおける哲学」『ペディラヴィウム：ヘブライズムとヘレニズム研究紀要』（査読有）、投稿中
②山田耕太「ヘブライ書の修辞学的分析」『新約学研究』（査読有）第37号（2010年）、近刊予定
③山田耕太「新約聖書の書簡文学」『敬和学園大学研究紀要』(査読有)第19号(2010年)、pp.115-126.
④山田耕太「フィロンにおける修辞学」『新約学研究』(査読有)第37号(2009年)、pp.5-22.
⑤山田耕太「フィロンにおけるパイデイア」『敬和学園大学研究紀要』（査読有）第18号（2009年）、pp.223-233.
⑥山田耕太「ローマ書の修辞学的分析」『新約学研究』（査読有）第36号（2008年）、pp.17-31.
⑦山田耕太「ギリシア・ローマ時代のパイデイアと修辞学の教育」『敬和学園大学研究紀要』(査読有)第17号(2008年)、pp.217-231.

〔学会発表〕（計８件）
①山田耕太「ヘブライ書の修辞学的分析」日本新約学会（2009年9月12日）国際基督教大学
②山田耕太「フィロンにおける哲学」日本基督教学会（2009年8月28日）北海学園大学
③山田耕太「新約聖書の書簡文学」日本基督教学会関東支部会（2009年3月27日）聖学院大学
④山田耕太「フィロンにおける修辞学」日本新約学会（2008年9月12日）東北学院大学
⑤Kota Yamada “Is Romans an Ambassadorial Letter?” 日本聖書学研究所シンポジウム“Paul, Romans and Japan”（2008年4月21日）日本聖書学研究所
⑥山田耕太「フィロンにおけるパイデイア」日本基督教学会関東支部会（2008年3月14日）聖学院大学
⑦山田耕太「ローマ書の修辞学的分析」日本新約学会（2007年9月26日）東京神学大学
⑧山田耕太「ギリシア・ローマ時代のパイデイアと修辞学の教育」日本キリスト教教育学会（2007年6月30日）沖縄キリスト教大学

〔図書〕（計２件）
①山田耕太「福音書は伝記文学か？」佐藤研他編『経験としての聖書：大貫隆教授献呈論文集』日本聖書学研究所（2009年）、pp.281-294
②山田耕太『新約聖書と修辞学：パウロ書簡とルカ文書の修辞学的・文学的研究』キリスト教図書出版社（2008年）、pp.1-421.

〔その他〕
http://keiwa-c.ac.jp/kenkyu/kiyo/doc/kiyo19-6.pdf　論文③
http://keiwa-c.ac.jp/kenkyu/kiyo/doc/kiyo18-11.pdf　論文⑤
http://keiwa-c.ac.jp/kenkyu/kiyo/doc/kiyo17-10.pdf　論文⑦